

質問への回答②

質問②：小3の女子。いつ診断を受けるのがよいか？

回答：

診断を受けるのがよい時期は子どもによって一人一人違います。子どもが診断を受けることになるのは、集団生活をうまく送れず友達関係でトラブルをかかえたり、勉強についていけなくなったり・・・と、障害特性により生活や学習面での困り感を子どもが持ち始めた頃が多いようです。子どもがこの困り感を持つようになる時期は、その子どもの発達の状況や周囲のサポートのありようによって様々なので、診断の時期は一人一人の子どもによって違ってくるのです。ですから小学校に入学してすぐ診断を受ける子どももいれば、社会人になってから診断を受ける人もいます。

診断を受けるにあたって大切なことは、困っている原因を障害に求めないようにすることです。そういう診断の受け方をすると、「私が〇〇なのは、障害があるから仕方のないだ」と、不都合なことを障害のせいにするようになってもおかしくありません。

診断名をつけてもらうことが大事なのではなく、診断を受けることが自分理解につながるから診断を受けるのだということを子どもにわかるように伝えてから診断を受けさせてやってほしいと思います。「なぜ僕は友達とこんなに違うのだろう」「なぜ私はこんなことができないのだろう」と理解できず、うまくいかず、自信を無くしかけていることの原因を知り、理解する。つまり、診断が自己理解につながり、自分らしい生き方を見つけることにつながるために診断を受けるのだという視点がぶれないようにしてほしいのです。

だからもしかすると、診断を受ける前に、自分が困っていることを周囲の人たちに理解してもらいサポートしてもらえる経験、そのことで自分なりの生き方を見つけることができ、それを周りの人たちに認められ受け入れられる経験、をたくさん積ませてやっておくことの方が大切かもしれません。